

## 国立大学における就職指導体制に関する現況調査報告書

吉本, 圭一

Yoshimoto, Keiichi

<http://hdl.handle.net/2324/18884>

---

出版情報：国立大学における就職指導体制に関する現況調査報告書, pp.1-41, 1998-06-01. 文部省高等教育局学生課国立大学における就職指導体制等の在り方に関する研究会

バージョン：published

権利関係：



## 第2章 就職決定の状況

### 1. 卒業後の進路動向

各大学の平成9年3月卒業生の卒業後の進路について、卒業段階での進路情報にもとづいて回答してもらったところ、大学のタイプ別に表2-1のような進路概況となった。すなわち、医歯系を除く本調査分析対象の国立大学では、平均して1159.5名の卒業生を送り出し、そのうち617.8人を就職させており、無業者は142.8名に達している。大学のタイプ別には大規模総合大学で、卒業生数が多いことを反映して、無業者も239.7人となっている。またそれ以外の総合大学では、卒業生はほぼ半数程度であるけれ

表2-1 大学別の卒業後の進路状況

	大学タイプ						合計
	大規模総合大学	総合大学	教育系大学	文系大学	理系大学	医学・芸術・体育系大学	
卒業生数	2,701.7	1,408.2	664.8	669.7	650.6	185.3	1,159.5
進学者数	1,126.0	285.8	61.2	65.9	296.6	43.8	314.3
就職者数	1,149.9	831.6	373.4	472.1	302.5	33.2	617.8
一時的な仕事	14.9	15.1	50.9	4.4	0.2	5.3	15.7
無業者	239.7	183.9	170.8	110.1	27.2	34.7	142.8
その他	84.8	50.7	8.5	17.1	24.1	0.0	37.2
臨床研修医	86.4	41.0	0.0	0.0	0.0	68.3	31.7

ども、無業者の数は183.9名となっており、さらに教育系大学や文系大学でも、規模の割合で見ると、無業者の比率は総合大学よりも多くなっている。

つぎに、学部別に見ると、一学部平均の卒業生は307.8人であり、そのうち過半数の168.8人が就職しており、一時的な仕事についた者が2.7人、無業者が36.2人、その他が10.8人となっている。無業者が多いのは、教育系で1学部あたり66.8人、人文系で58.0人、社会科学系で46.2人などとなっており、文科系学部で無業者が多くなっている。

表2-2 学部専門分野別の卒業後の進路状況

	学部専門分野							合計	
	人文系	社会科学系		理学系	工学、理工系	農学系	保健系、その他		教育系
卒業者数	266.4	287.7	219.7	563.4	198.8	124.2	300.6	307.8	
進学者数	30.4	15.2	118.4	266.1	71.1	45.6	30.0	89.2	
就職者数	164.1	212.5	71.3	268.6	100.9	58.4	176.8	168.8	
一時的な仕事	1.5	0.1	1.2	0.3	0.4	2.0	12.5	2.7	
無業者	58.0	46.2	19.8	18.6	18.9	13.5	66.8	36.2	
その他	12.4	13.7	8.9	9.7	7.1	4.7	14.5	10.8	
臨床研修医	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	

## 2. 就職決定率の比較

就職決定にいたる状況を大学間、学部間で比較するために、就職者、一時的な仕事、無業者、その他を合計して、その中での就職者の比率を算出した。この就職決定率の指標は、あくまでも操作的な定義であり、この母数をもって就職希望者数と呼ぶわけにはいかない。それは、一方では、本来進学や留学その他の準備など、まさしく就職を意識していなかった層を含む「その他」をすべて潜在的就職母集団に含み込み分母を過大に評価したり、また、採用決定の情報が大学に伝わっていなかったなど就職者を過少に把握したりして、本来把握したい就職希望者中の就職者の比率を過少に評価する危険がある。他方では、就職希望をもちながらも、就職環境の悪化の故に進学へと進路を変更した卒業生を潜在的就職母集団から除外することになり本来の求める比率を過大評価する危険もある。

そうした問題はあるけれども、大学タイプや学部タイプ別の就職決定状況のおよその「傾向」を見るものとしては、この指標をもちいることで明らかになることも多いと考えられる。

まず表2-3は、大学タイプ別の就職決定率である。表のとおり、理系だけの大学でもっとも就職決定率が高く、8割以上の就職決定状況となっている大学が多い。つづいて、文系だけの大学は比較的就職決定率の高い大学と低い大学に分かれている。教員養成系の大学においては5割を下回っている大学もみられ、就職困難層が集中していることが読みとれる。

表2-3 大学タイプ別の就職決定率

(大学票、上段は実数、下段は%)

	就職決定率							合計	
	0-25%	25-50%	50-60%	60-70%	70-80%	80-90%	90-100%		
大学 タイプ	大規模総合 大学					6 66.7	3 33.3	9 100.0	
	総合大学			4 12.5	18 56.25	10 31.25		32 100.0	
	教育系大学		3 27.3	3 27.3	2 18.2	2 18.2	1 9.1	11 100.0	
	文系大学				3 42.9		4 57.1	7 100.0	
	理系大学				1 7.1	3 21.4	5 35.7	5 35.7	14 100.0
	医学、芸術、 体育系 大学	4 66.7	1 16.7				1 16.7		6 100.0
	合計	4 5.1	4 5.1	3 3.8	10 12.7	29 36.7	24 30.4	5 6.3	79 100.0

地域別には、大都市圏の大学ではそのほぼ半数は、就職決定率8割以上となっているのに対して、地方圏の大学では3分の1にとどまっている。

表2-4 大学所在地域別の就職決定率

(大学票、上段は実数、下段は%)

	就職決定率							合計	
	0-25%	25-50%	50-60%	60-70%	70-80%	80-90%	90-100%		
所 在 地 域	地方圏	4 7.5	2 3.8	1 1.9	6 11.3	23 43.4	14 26.4	3 5.7	53 100.0
	首都圏、愛 知、京阪神		2 7.7	2 7.7	4 15.4	6 23.1	10 38.5	2 7.7	26 100.0
合計	4 5.1	4 5.1	3 3.8	10 12.7	29 36.7	24 30.4	5 6.3	79 100.0	

つぎに学部単位でみると、就職決定率は、最頻値が80-90%の区分であり、27.5%がこの区分に入っている。しかし、分散も大きく、50%以下の学部が7あり、逆に90%以上の学部が43ある。専門分野別には、工学系で半数以上は就職決定率9割以上で、残りも8割以上であり、就職決定がスムーズに進んでいることがわかる。これに対して教育系では50%以下の就職決定率の学部も5学部あり、これに70%以下の就職決定率の学部を加えてみると、この区分以下の就職決定率の学部が半数を越えていることがわかる。この比率は人文系および理学系でも同様である。

表2-5 学部専門分野別の就職決定率

(学部票、上段は実数、下段は%)

	就職決定率						合計
	25-50%	50-60%	60-70%	70-80%	80-90%	90-100%	
学人文系		2	11	8	3		24
部		8.3	45.8	33.3	12.5		100.0
社会科学系		2	8	16	19	7	52
		3.8	15.4	30.8	36.5	13.5	100.0
理学系	1	1	15	7	4	1	29
	3.4	3.4	51.7	24.1	13.8	3.4	100.0
工学、理工系			1		18	28	47
			2.1		38.3	59.6	100.0
農学系		2	2	12	15	4	35
		5.7	5.7	34.3	42.9	11.4	100.0
保健系、その他	1	1	2	6	5	3	18
	5.6	5.6	11.1	33.3	27.8	16.7	100.0
教育系	5	7	14	12	4		42
	11.9	16.7	33.3	28.6	9.5		100.0
合計	7	15	53	61	68	43	247
	2.8	6.1	21.5	24.7	27.5	17.4	100.0

次に、学部卒業生中の女子の比率で見ると、女子比率が高い学部ほど就職決定状況が悪く、女子比率の低い学部ほど就職決定状況が良い傾向がある。これは、女子の多い学部が人文や教育系など、女子が少ない学部が工学などという傾向があることと関連している。すなわち、就職の困難な専門分野特性とそこでの学部内での女子の多いことが相乗して問題となってくることが読みとれる。特に、女子が5割をこえる学部では、就職決定率が低い学部が多くなっている。

表2-6 女子比率別の学部別就職決定率

(学部票、上段は実数、下段は%)

	学部の就職決定率						合計
	25-50%	50-60%	60-70%	70-80%	80-90%	90-100%	
学部			1		13	22	36
女子			2.8		36.1	61.1	100.0
比率			4	3	11	14	32
0-10%			12.5	9.4	34.4	43.8	100.0
10-20%		2	11	13	13	1	40
20-30%		5	27.5	32.5	32.5	2.5	100.0
30-40%	2	3	5	14	8		32
40-50%	6.3	9.4	15.6	43.8	25		100.0
50-60%		2	10	10	8	3	33
60-70%		6.1	30.3	30.3	24.2	9.1	100.0
70-80%	1	3	6	7	9	1	27
80-90%	3.7	11.1	22.2	25.9	33.3	3.7	100.0
90-100%	3	4	13	9	5	1	35
合計	8.6	11.4	37.1	25.7	14.3	2.9	100.0
	1	1	3	5	1	1	12
	8.3	8.3	25	41.7	8.3	8.3	100.0
合計	7	15	53	61	68	43	247
	2.8	6.1	21.5	24.7	27.5	17.4	100.0

### 3. まとめ

以上のような、就職決定率については、卒業時点で就職までの進路を確定できない卒業生が、国立大学においても無視できない比率で存在していることが明らかである。

大学単位でも、進学者等を除いて算出した就職決定率は50%を下回る大学から90%を上回る大学まで幅広く存在している。学部別には、教育学系、人文系、理学系などで就職決定率の低い学部が多く見られる。また、地方地域で就職決定率が低い傾向にある。ただし、同じ専門分野でも、個々の学部間での決定率の差は大きく、分布の広がり大きい。

すなわち、大学学部による就職指導その他の取り組みの如何によって、卒業生の就職へのプロセスやその結果に有意な差が生じる可能性があるということの意味しているのではないだろうか。